

中1イングリッシュキャンプを終えて…

遺愛女子中学校では、中1生対象に1月末に「ふるる函館」という研修施設で、1泊2日の『イングリッシュキャンプ』を実施しています。

今年の様子を、CIA担任の南時子先生に紹介していただきました。

…1月30日(木)から31日(金)「ふるる函館」で、中1のイングリッシュキャンプが行われました。



校長先生から「AKP」のお話をいただき、「がんばっていきまっしょい!!」で気合を入れて出発。ネイティブスピーカーの先生方とともに「All English」で過ごす2日間の始まりです。最初は少々緊張

しているようでしたが、先生方の明るさと働きかけで少しずつリラックスできていました。

1日目の午前中はゲームやクイズで楽しみました。英語での説明と指示なので、なかなかルールがわからなかったこともあったと思いますが、とても集中していて、友達と協力しながら楽しんでいました。(担任が「Criss Cross Game」のルールを理解できたのはゲームが終わる頃でした)

お昼をいただいて、午後はいよいよスキットの作成に入りました。あらかじめ調べをした国の情報と練習していたダンスに、その場で選んだ小道具とくじ引きでひいた「テーマ」(恋愛もの、友情もの、冒険もの、サスペンスもの…)を加えオリジナルのスキット(寸劇)を作ります。何も無いところからストーリーを作るのは日本語(母国語)でも大変なのに英語でスキットを作るのはハードルがかなり高いです。でも、この行事の大きなテーマは「挑戦」です。

その挑戦をサポートする工夫がたくさん準備されていました。たとえば、「ビンゴシート」が配られていて、シートに書いてある英語を使って先生方にたくさん質問をするとビンゴができるのです。そういうアプローチが励みになったのと、先生方が各グループを回ってきめ細かくアドバイスして下さったおかげで各グループ頑張れました。手作りの小道具がいくつも出来上がっていましたね。

夕方、先生方が「また明日」とお帰りになった後は、夕ご飯、英語の本を読む時間、そして就寝までのフリータイム。クラスメイトとの「初めての宿泊」、どんな時間を過



ごしていたのでしょうか？

2日目の午前中は、スキットづくりの続きそして練習です。今回はダンスを練習していたので、発表の会場を「ふるる函館」の体育館にしました。それぞれのリハーサルを先生方がチェックしてくださったのですが、広い空間でなかなか声が通りません。先生が何度も「大きな声で！」と呼びかけていらっしゃいました。

お昼の前に、ローレンス先生の学生時代などのお話を聞いてクイズに答える時間があったのですが、昨日よりずいぶん英語を聴くのに慣れてきたようで感心しました。

そして午後、最後の仕上げをしたあとの本番。練習の甲斐あって各グループきちんと声を客席に届けていましたし、なかなかの熱演でした。楽しかったです。

最後のミーティングでは、先生方から一人一人に「修了証」が渡され、「ベストパフォーマンス」「ベストスピーカー」「ベストアクトレス」「ベストダンス」の表彰が行われました。暖かく生徒に声をかけてくださる先生方の様子を拝見して、2日間という短い時間で一人一人をよく見てくださったんだなあ感慨深かったです。

先生方と「ふるる函館」の方々にご挨拶をして、迎えにきてくださったスクールバスで学校に戻ってきました。中2中3



の先輩たちが「おかえりなさい」「おつかれさま」と声をかけてくれました。

さすがに疲れが表れていましたが、達成感にあふれたいい顔をしていましたね。

ふりかえってみると、「英語を使って過ごす」ことで、英語以外のスキルも上がったのではないかと思います。積極的に働きかける

こと、大きな声を出してはっきり伝えること、うまくいかなくてもくさらずに前向きに取り組むこと、誰とでも協力すること、想像力と創造力を生かして工夫をすること、お互いを思いやること、自分の心を抑えたり少し我慢したりすること…どんな言語でも、どんな環境でも必要なことをたくさん学べたイングリッシュキャンプでした。

最後になりましたが、今回のプログラムを提供してくださったHeroesの皆様、安全に一泊二日を過ごさせてくださった「ふるる函館」の皆様、準備段階から指導し支えてくださった先生方、お忙しい中様子を見にきてくださった先生方、サポートしてくださった職員の皆様、長い時間一緒にいてくださり素敵な写真を撮ってくださったカメラマンの干場さん、一緒に引率し、きめ細かい心配りをしてくださり、勉強の環境を整えてくださり、担任の数々の凡ミスをカバーしてくださったお二人の先生、そして何よりあたたかく見守ってくださった保護者様とご家族の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。